

# 貸切バス初任運転者の安全運転の実技指導について

有限会社 総合企画コーポレーション  
(総企バス)

当社では貸切バスの初任運転者に対する実技指導を以下の通り実施します。

## 1. 実施時期

新たに入社した者を「貸切バスの運転者」に選任しようとするとき、その選任前に実施する。

## 2. 指導概要

### (1) 指導の時間数及び選任に必要な要件

- ① 当社初任運転者の休憩時間などハンドルを持って運転しない時間を除き、実ハンドル時間で延べ20時間以上とする。
- ② 但し、入社以前に運転経験が無い或いは少ないと認めた場合又は、指導を通じて指導教官がさらに指導が必要と認めた場合は、その時間を延長する。
- ③ 最終的に指導教官による「みきわめ」を行い、これに合格するまでは運転者に選任しない。
- ④ 既に運転者として選任している者を車両区分の大きなものに変更して選任するときも改めて①～③に従い指導する。

### (2) 指導教官

- ① 実技指導は指導教官が同乗（添乗）して実施する。
- ② 指導教官が具備すべき運転経歴・指導経歴  
当社において大型バスを運転できる運転者として選任されており、かつ当社における運転期間が延べ5年以上の者（又は他社での指導経歴が同等以上の経験者）を当てる。

### (3) 運転指導に使用する車種区分

原則、大型バスとする。

但し、採用時に本人が所有する運転免許区分、本人の希望を踏まえて中型バス或いは小型バスの運転者として選任しようとするときは、それに応じた車種で運転指導を行う。

### (4) その他留意事項

- ① 当該初任運転者が自らの運転を顧みて、次の運転にそれを反映させることを企図し1日のハンドル時間は、最大でも6時間程度とする。選任を急ぐことを理由に極端に短期（2～3日）で終了させることは避ける。
- ② 当該初任運転者が実際にハンドルを持って運転しつつ教官が運転する上での注意事項、留意事項を適時、運転手に伝達・指導する。また、必要に応じて帰庫時に口頭指導を行う。

### 3. 指導の具体的な内容（運転する上での注意事項、留意事項）

「バス事故防止対策検討ワーキンググループ」の実技指導の例等を踏まえて下記内容を教育・指導する。

- (1) 一般道・夜間走行
  - 出発前に、事故の危険性が高い箇所を把握し、適切な運転操作を運転者に指導する。
  - 自転車・歩行者等の動きに注意する。
  - 停車中も適宜後方の安全確認を行う。
  - 左折する際は、内輪差による巻き込みおよびオーバーハングに注意する。
  - 交差点右折時には、対向車の二輪車や横断歩道上の自転車・歩行者に注意する。信号のない横断歩道に歩行者があるときは歩行者が優先。
  - 夜間走行は日中と見え方が違うので自転車・歩行者・特に二輪車に注意する。
- (2) 高速走行
  - 料金所の幅が狭く（特に首都高速はさらに狭い）車両との間隔が狭いため、車幅に注意する。
  - 加速車線が短いところがあるため、本線車両の動きに注意しながら適切なタイミングで合流する。
  - ジャンクション（合流点・分岐点）ではお互いの車両が複雑な動きをするため、前後左右の車両の動きに注意して合流する。
  - 特に首都高速ではカーブの先が見えない箇所があり突然渋滞していることもあるため、手間でしっかりと減速する。
  - 首都高速にあっては、ジャンクションや出入り口が左右にあるため、走行前に予習しておく。
  - ETCレーン通過時には、前後左右の車両の動きに注意する。
  - ETCレーンでは、不具合等によりバーが開かない場合もあるため、時速20km以下の速度で通過する。
- 下り坂は、速度超過につながりやすいため、排気ブレーキ・リターダを適

切に使用し、一定の速度を保って走行する。

- 合流地点では譲り合いを心掛ける。
- 速度に応じた適切な車間距離を保って走行する。
- サービスエリア内では、左からの車両、歩行者に注意する。

(3) 上り坂

- 勾配が変わらない場合は、一定のギヤを保持して走行する。そこは復路では下りとなり同じギヤを使用するためギヤを覚えておく。
- 見通しの悪いカーブでは、対向車等の危険予測を行い、注意して走行する。
- 道幅が狭く、やむを得ずセンターラインを越える場合は、速度を控え対向車の妨げとならないよう注意する。

(4) 下り坂

- 排気ブレーキ、リターダ使用し、フットブレーキを踏みすぎないように注意する。
- 乗客があるときはその重量が加わることでブレーキが効きづらくなるため注意する。
- 過回転に注意し、さらに加速するような場合にはフットブレーキを使用する。
- エンジン回転数が合っていないとギヤが入らないことがあるため注意する。
- カーブ手前で減速し、なるべく外側を走行する。
- 上りと同じギヤもしくは一段低いギヤを使用し、上りよりも高いギヤは使用しない。

(5) バスの特性

- 車両の死角を理解する。
- 発車時は、アンダーミラーによりバス前方の安全確認を行う。
- バックアイカメラの特性を理解する（カメラよりも高い位置は見えない、全方位は確認できない、視野は狭い等）
- 速度に合ったギヤを使用する。

4. 指導ルート

3.の内容を指導できるコースを選定して実施する。以下に指導ルートの例を記載するが、実施順は必ずしも下記に従うものではなく、また全てを実施するものではない。指導の進捗状況、運転者の習熟の度合い、実施時の道路事情、環境、貸切バスの運行頻度などを考慮しつつ実施する。またいくつかの場所を組み合わせることも実施することもある。

- (1) 交通量は比較的少ないものの大型車の通行や見通しの効かないカーブがある一般道
- 国道 191 号線（安佐北区飯室地区～安芸太田町松原地区）
  - 県道 38 号線（安佐北区久地地区～同区布地区）
  - 県道 307 号線（八幡トンネル）
- (2) 急こう配のある一般道
- 国道 191 号線（北広島町八幡地区～島根県益田市）
  - 国道 186 号線（北広島町荒神原地区～島根県浜田市）
  - 県道 307 号線（北広島町荒神原地区～同町八幡地区）
  - 県道 71 号線（安佐北区久地～当社広島沼田営業所）
  - 大朝鹿野大規模林道（安芸太田町松原地区～同町恐羅漢スキー場）
- (3) 歩行者・自転車を含め交通量の多い一般道
- 広島駅周辺
  - 平和記念公園周辺
  - 宮島口周辺
  - 浜田駅周辺
- (4) 歩道が整備されている等、歩行者・自転車の通行はないが、二輪車をはじめ車両の往来が多く、速度の速い一般道
- 国道 54 号線（安佐南区安古市～東区牛田）
  - 県道 71 号線・38 号線（西区田方～安佐南区安古市）
  - 西広島バイパス（西区田方～廿日市 IC 入口）
- (5) 著しく道幅の狭い一般道
- 国道 487 号（呉市～江田島市大君地区他）
  - 県道 298 号線・44 号線（江田島市大君地区～同市江田島地区）
- (6) 高速道路
- 広島高速 3 号線
  - 広島呉道路（クリアライン）
  - 広島道
  - 中国道
  - 山陽道

以 上